

九州大学病院別府病院の SS-MIX2 活用事例について

九州大学病院別府病院 メディカル・インフォメーションセンター 原田 慶一

1. はじめに

SS-MIX2 (Standardized Structured Medical record Information eXchange 2)とは厚生労働省が推進している標準的診療情報交換のための指針であり、仕様書で定義されている「標準化ストレージ」と標準規格が定められていない「拡張ストレージ」で構成される。九州大学病院別府病院(別府分院)では SS-MIX2 を活用し、地域医療連携システム「ゆけむり医療ネット」と国立大学病院災害対策バックアップ事業(国大 BCP 事業)の二つの事業を行っている。

2. ゆけむり医療ネットについて

大分県別府市に展開されている閉域 IP 網を利用した診療情報共有ネットワークであり、患者の同意を得ることで市内の基幹病院の当該患者の診療情報を参照することが可能となる。

別府分院ではゆけむり医療ネット参加に際して、同意運用の策定と開示するデータ項目の取り決めを行っている。同意運用は、情報を照会する医師と患者間で直接取交す個別同意での運用とした。また、開示項目は、標準ストレージの患者情報・検体・処方・注射のデータと DICOM 形式の医用画像、拡張ストレージの経過表・画像レポート・退院サマリとした。

3. 国立大学病院災害対策バックアップ事業について

国大 BCP 事業は、国立大学病院の診療情報を東西 2 箇所にあるデータセンターへ退避する事業であり、SS-MIX2 データと電子カルテのフルバックアップ、レセプト電算情報のバックアップが行われる。被災した場合、インターネットから SS-MIX2 データを参照し診療を継続することができ、最終的にフルバックアップされた電子カルテとレセプト電算情報を元に病院情報システムの復旧が行われる。

別府分院では、電子カルテとレセプト電算情報はバックアップしておらず、SS-MIX2 データのみバックアップしている。また、直接データセンターへバックアップするのではなく、一度九州大学病院の SS-MIX2 ストレージにデータを格納し、その後九州大学病院の SS-MIX2 ストレージとともにデータセンターにバックアップする仕組みを取っている。将来的な研究や教育のデータ分析に役立てていくことも視野に入れ、これまで九州大学病院と別府分院で行われていなかった診療情報の共有を含めた情報インフラの整備を行っている。

4. 今後の課題

ゆけむり医療ネットに参加し 1 年が経過しているがシステムの参照数が他の基幹病院に比べ少ないため、その原因についての調査が必要である。国大 BCP 事業においては、別府分院は電子カルテのフルバックアップとレセプト電算情報のバックアップを行っていないため、災害時のシステム復旧に関しては別途整備が必要である。